

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人独自の理念があり、それを基本としての事業所独自の理念もある。		
	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼、又はミーティング等で処遇を含め家での生活という視点からの支援、援助等話し合い日々取り組んでいる。		
	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族様へは日々の暮らしの様子を中心に理解して頂けるよう努め、又地域内外問わず認知症勉強会へ参加し、理解して頂けるよう取り組んでいる。	○	近隣の地域の人々と接する機会や場がまだ少なく、今後の課題として取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日頃の挨拶等に心掛け、行事等で手づくりした物をお配りしたり、近隣の方から頂いたりと日常的な付き合いができるよう努めている。		
	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域に密着されている方々との関係づくりには努めているが、地元の人々との交流する機会はまだまだ少ない。	○	地域活動等、情報収集に努め、参加できるよう取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	包括区域の定期的な会に参加し、話し合い情報交換等行ない、役立つ事があれば協力できるよう取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価前には全職員へ評価アンケートを配布、評価の意義、意識づけを行っており、評価後の結果は全職員が具体的な内容等、理解把握できるよう開示しサービス改善に活かせるよう取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の暮らしの状況、活動内容等の報告をもとに話し合いサービスの向上、改善等に活かせるよう努めている。	○	定期開催予定が事業所の都合や日程調整の関係で不定期になりがちだったため、定期的な開催が行なえるように努め、取り組んでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携は、事業所として必要最小限となっている。	○	共に学ぶ機会が出来るよう、市町村との連携を図りサービスの質の向上に取り組んでいけるよう努めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会等に参加し、必要な方へ活用支援できるよう努めている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	個人の状況に目を配る支援を行っており、見過ごされることがないように常に防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする際には御本人様の状況把握に努め、御家族様と入居前より生活するにあたっての不安・疑問点等話し合いを行っており、解約される場合にも同様、退居後支援が行なえるよう努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・日々の暮らしの中で意見・不満等聞き逃すことのないよう心掛け、必要な場合は個別に面談を行なっている。 ・市の派遣事業等を活用	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の暮らしぶりや諸連絡等記入し、月に1回ホーム便りを発行、金銭管理については収納表を作成し郵送している。健康状態等必要に応じて個別に連絡・報告を行なっている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご面会に来られた際等、日常的なご様子を伝えながら意見要望等、引き出せる	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等、個別に意見・提案を聞く機会を設け、反映させていけるよう努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	柔軟な対応ができるよう、日々の状況変化に応じて調整を行なっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	極力最小限になるよう努力しており、異動・新規採用の場合には、研修期間を設けるなど、ご利用者様へのダメージにならないよう配慮を行なっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人内での職員研修を行っており、また職員個人が希望する研修など必要に応じて外部の研修にも受講できるよう配慮を行なっている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括地域内での勉強会、また同業者での相互研修等を活用し、質を向上させていけるよう取り組んでいる。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員個人の状態が把握できるよう配慮しており、場合に応じて個別面談を実施している。また職員全体での食事会等も行なっている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人の状況把握に努め、必要に応じて支援・指導等配慮を行なっている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	御本人様の負担にならないよう、面談日時等に配慮を行ない、聴く機会の場づくりが多くもてるよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	御家族様からの相談・状況・状態・希望等、面談できる機会を多くもち、受け止めできるように努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状でのご様子等伺いながら、できるだけその状態・状況にあった支援になるよう、情報の提供を行ない必要とされているサービス支援になるよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	御利用される前に訪問面談できる機会を多くもち、また見学をかねて来所して頂く機会をもち、場の雰囲気・他の御利用者・職員とも事前に接する機会がもてるよう工夫・配慮を行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に過ごす生活の場であるという視点から支援できるよう心掛けており、家事的な作業・日常的な会話等から、共に学び・支えあえるよう場面づくりにも配慮を行なっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御面会に来られた際等、日々の暮らしでの御様子をお伝えし御本人様と一緒に過ごせる場がもてるよう配慮を行ない、近況等情報共有しながら支えあえる関係づくりに心掛けています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御本人様の状態・後家族様の状況等の把握に努め、良い関係づくりが築いていけるよう配慮を行なっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出等の規制はなく、できるだけ御本人様の希望に添えるよう支援に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お互いに助けあい支えあうことができるよう、見守り・支援を行ない、また場面づくりにも配慮を行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も、相談等随時受け付けており、必要とされる御利用者様・御家族様に、その後も支援できるよう配慮を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・御本人様の希望・意思表示等、個人にあわせた言葉かけの工夫を行ない、また表出しできる状況に応じて場面づくりにも配慮を行なっている。 ・職員全体で把握できるよう口頭での申し送りや連絡ノートを活用している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴・生活環境等、御家族様や関係者の方から、経過等の情報収集に努め、職員全体で把握できるよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人の生活パターンを把握し、自己能力・心身状態等、変化に応じて対応できるよう常時見守りやすい場所に居よう心掛け、個人一人ひとりのパターンを把握できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・日常生活の中での課題・支援のあり方について、職員全体で意見を出しあえるよう工夫を行なっており、個人の特徴を踏まえた計画が作成できるよう努めている。 ・御本人様からの意見を引き出すには困難な場合もあり、また御家族様と話し合える機会も少ない為、総合的に意見・意向等が反映された計画作成とはいえない点もある。	○	・御面会の際など、御家族様と日々の暮らしの中での御様子等お伝えしながら、計画内容について話し合える機会がもてるよう努めている ・個々の状況により、御意見・御意向等伺う機会が少ない場合もある為、定期的に話し合えることができないこともあり、計画作成について御家族様の御意見等、伺える工夫・配慮を今以上にこなす必要がある。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・定期的見直しを行なっており、また個人の状況・状態変化に応じて随時、見直しを行い計画を作成している。・必要に応じて御家族様へ状態変化等・現状報告し、支援・計画内容等、ご説明し話し合いの上、計画を作成している。	○	同 上

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の御様子や状態的な変化等、担当者で個別な話し合いを行ったり、また職員全体が参加できるようミーティングの時間等の工夫を行ない情報共有しながら、実践・見直しに活かせるよう努めている。 ・気づいた点・支援する上での工夫等、口頭で伝達する機会が多く、個別記録に記入できていないことがある。	○	朝礼・ミーティング等で日々の状態的な変化等について、どう対応し支援するのか、申し送りを行っているが、個別に記載されているものが少なく、書式的なものの工夫をし、実践・見直しに活かしていけるよう取り組む必要がある。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・御本人様・御家族様の状況・希望に応じて外出・外泊される際など送迎支援をするなど、柔軟な対応ができるよう心掛けている。 ・併設しているデイサービスでの活動にも常時参加できるよう配慮を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣の公民館職員の方々との関係づくりに努め、ボランティア・サークル活動等、必要に応じて協力支援して頂けるよう取り組んでいる。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	これまでに他のサービスを御利用された事例はないものの、地域の他のサービス事業者の方々に参加される勉強会等に参加し、話し合い・意見交換等行っており、他のサービス内容の把握に努め、必要に応じて支援できるよう取り組んでいる。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状では協働してはいないが、必要に応じて協力して頂けるよう働きかけを行なっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態に応じて、その都度連絡・相談を行ない、御本人様が安心して受診できるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	常に連携のとれる医師がおり、2週間に1回と定期的な往診があり、その都度相談でき、また御本人様が安心して診察して頂けるよう配慮を行なっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、日常の健康管理はもちろんのこと、日々の状態変化についても、相談しながら支援を行なっている、また昼夜問わず連携がとれるよう努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院後の際、その都度御家族と相談しながら状況・状態にあわせた話し合いが行なえるよう努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方について御本人様・御家族様の意思確認を行ない、状態変化に応じて、その都度御家族様・かかりつけ医師と繰り返し話し合い、方針を共有し支援できるよう配慮を行なっている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	御本人様の日々の状態を把握し、御家族様の協力のもと、医師と連携し職員全体でケアに対する意思統一を行ない、チームとして日々をよりよく過ごせるよう配慮しながら支援を行なっている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでに事例的なものはないが、ダメージを防ぐための話し合い情報交換等、対応できる体制がある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・言葉掛けや対応等、ゆったりと接するように心がけ、日々変化されるその状況にあわせた対応に努め、個人のプライバシーを損ねる事のないよう配慮を行なっている。 ・個人情報の取り扱いについては、全職員で誓約書にサインをし、保護の徹底に努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・個人一人ひとりとかかわる時間をもち傾聴できるよう努めており、個人にあわせた言葉かけを行ない状況やその場面において自己決定できるよう工夫・配慮を行なっている。 ・個人の思いの表出し・自己決定できにくい場合もあり、時に職員の都合で決めてしまうことがある。	○ 常に気持ちの余裕をもち接するよう努め、その場の一言から次へとつながるような場面づくりに心がけており、個人の希望が少しでも、多く見出せるよう、個人の状態・状況に合わせた支援になるよう配慮を行い取り組んでいる。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・個人の日々の生活パターンを把握し、一人ひとりのペースでどうされたいのか言葉のやり取り等工夫し、配慮できるよう努めており、できるだけ希望にそった支援になるよう心掛けている。	○ 同 上
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・御本人様または御家族様など希望にあわせられるよう相談・確認をし支援を行なっている。 ・服装等、個人の好みの色・デザイン等にも配慮を行なっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器・湯のみなど、御本人様の使いやすいものや好みのもを使用しており、介助・見守りが必要な方には、そばに職員がいるように配慮を行なっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人的な制限がない限り、飲み物・おやつ等、御家族様からの差入れや、個人で買い物されたもの等、日常的に楽しめるよう支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人のパターンをチェックし、把握できるように努め、言葉掛けや誘導に配慮し、排泄支援を行なっている。また日中・夜間と個人にあわせた下着の使いわけを行なっている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯の制限はなく、できるだけ一人ひとりの希望やタイミングにあわせるように配慮し支援を行なっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人の生活習慣や、日々の状況を把握し、時には寄り添い安眠できるよう支援を行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人一人ひとりの得意なもの、また好まれる物等を把握し、状態や状況にあわせて場面づくりに工夫・配慮を行なっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で管理できるものは管理して抱き、できない方には一人ひとりの希望や力に応じて使えることができるよう支援・配慮を行なっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の状態や状況に配慮しながら、散歩・外出等ができるよう支援を行なっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節にあわせた行事を行ない、外出できる機会をつくっている。また、個別の希望にそって外出できる機会がつけられるよう配慮を行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様などとの連絡など、利用しやすいよう配慮を行なっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時には、ゆったりと過ごして頂けるよう配慮を行なっており、いつでも気軽に訪問できるよう、訪問時間も制限していない。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個人の状況に目を配る支援に心掛け、身体拘束をしないケアに努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関・勝手口と鍵はかけておらず、常に目を配りながら自由に出入りできるよう配慮を行なっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日々個人一人ひとりの御様子を把握し、常時、見守りやすい場所に居よう心がけ、夜間もプライバシーに配慮しながら定期的な安否確認をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・保管場所をきめており、薬などは鍵をかけるなどして管理を行なっている。 ・個人の行動パターンを把握しており、日々危険を防ぐための配慮を行なっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書の提出を義務付けており、その後も再発防止の話し合い等、行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急・応急時の手当の仕方など、勉強会等に参加し、必要に応じて専門職の方に指導して頂くなど、急変時に備えて取り組んでいる。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な訓練を行っており、近隣の方々にも協力を得られるよう働きかけを行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態や状況に応じて、その都度連絡を行ない個別で話し合いができるよう努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの日頃の身体状態の変化異変等、その日の様子・サインなど様子を観察し、見逃さないよう配慮を行っており、気づいた際には速やかに対応できるよう努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常時確認できるよう個人別の服薬ファイルを作成しており、症状変化・服薬変更など確認・把握できるよう連絡ノートなど活用している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個人の排便パターンを把握できるようチェック用紙を活用しており、乳製品・お茶など飲食物の工夫を行ない、適度な運動も行なえるよう努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯ブラシ等、個人専用のものがあり、言葉かけや・力に応じて介助するなど、日常的にケア支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食材が偏らないよう工夫し、野菜類も多く摂れるよう配慮し、量も個人一人ひとりにあつものになっている。 ・水分摂取も個人が希望される以外にも定期的に行なっており、状態や力に応じて介助し支援している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	日頃から手洗いうがいにも努め、感染症に対するマニュアルも作成しており、常時実行できるよう備えている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	日頃から、調理用具・食器等の除菌を行ない、衛生保持に心掛けている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に季節の花を飾ったり、建物周囲に共同で花を植えたりと家庭的な雰囲気作りに配慮を行なっている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・家庭的な雰囲気になるよう、施設らしく見えるものは、なるべく除去するよう配慮を行なっている。 ・障子・たてす・コタツ・寝ござなど、季節感をとりいれて居心地良く過ごせるよう工夫・配慮を行なっている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中、併設のデイサービスの方々と御一緒に過ごされる方もあり、規制せず自由に過ごせる場所づくりに配慮を行なっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前・入居時に御家族様と相談し、御本人様の使い慣れたものを持ってきて頂けるよう協力して頂いてる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常時、換気は適時に行ない、特に 夏・冬など温度調整に配慮を行なっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・お風呂等、立ち上がりしやすいよう介助バーがあり、個人一人ひとりの機能を活かして過ごせるよう、身体的レベルにあわせた介助に心掛け、できるだけ自立した生活が送れるよう支援を行なっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・個人の部屋に表札があり、またトイレなどわかりやすいようドアに明記してあり、洗面所にも個人のものでわかるよう名前が明記してある。 ・混乱や失敗を招くような状態は放置せず、対応支援できるよう配慮を行なっている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りへは、いつでも出入りできるようになっており、中庭・玄関先・物干し場付近の縁側など、活動後にくつろげる場がある。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 対人援助、心理的援助を個々の御利用者様の状況・状態にあわせて実践できるよう日々取り組んでいる。